

## 合理的 - 経験的情報処理測定尺度（日本語版）の作成

内藤 まゆみ<sup>12</sup> (NAITO Mayumi) 坂元 章<sup>1</sup> (SAKAMOTO Akira) 鈴木 佳苗<sup>1</sup> (SUZUKI Kanae)  
(<sup>1</sup>お茶の水女子大学大学院人間文化研究科)(<sup>2</sup>日本学術振興会)

キーワード：合理的処理、経験的処理、尺度作成

### 問題

個人の認知、特に情報処理過程を検討した研究では、2つの処理様式が頻繁に仮定されてきた。ひとつは、意図的、論理的、言語的、顕在的などの特徴を持つ処理であり、もうひとつは、ヒューリスティック、画像的、非言語的、潜在的などに特徴づけられる処理である。

Epstein (1994 など) は、前者を合理的処理、後者を経験的処理とし、この2つの並行する処理様式が相互作用し、情報処理が行われるとする認知的 - 経験的自己理論 (cognitive-experiential self-theory; CEST) を主張している。この理論では、情報を処理する際、経験的処理と合理的処理のどちらが行われやすくなるかは、一方の処理を行いやすいという個人差や、状況が論理的な思考を要する程度、などによって決定されると考えられている。

ところで、2つの情報処理様式に与える状況要因の影響は、多くの研究で確認され理論化されてきたが、それらの処理様式を用いる個人差を、特性として測定する試みはあまり多くはない。その測定を行った研究にも、どちらかの処理様式のみを測定しているなど、問題点が指摘できる (Epstein, Pacini, Denes-Raj, & Heier, 1996)。このような問題を受け、Epstein et al. (1996) は、経験的処理と合理的処理の個人差を測定する尺度として、合理的 - 経験的尺度 (Rational-Experiential Inventory: REI) を作成した。さらに、近年 Pacini & Epstein (1999) は、妥当性などの問題を解決するため、質問項目に追加・修正を行い、尺度の信頼性・妥当性を確認している。

そこで、本研究では、合理的 - 経験的尺度の日本語版を作成することを目的とする。尺度の妥当性の確認には、構造欲求、認知欲求、価値志向性尺度の下位尺度である理論、自尊心のそれぞれを測定する尺度を用い、経験的 - 合理的処理との相関を検討する。Pacini & Epstein が妥当性の確認に用いた尺度とは異なるが、Epstein ら自身により作成された尺度を多く含んでおり、より一般性が高いと考えられる上記の尺度を使用することとする。

### 方法

調査時期 2000年5月

被験者と手続き 多摩美術大学の学生103名と東京大学の学生187名の計290名に、授業時間を利用して質問紙を配布し、一斉回答を行った。

調査項目 合理的 - 経験的情報処理測定尺度 Pacini & Epstein (1999) により作成された尺度項目を翻訳し、心理学専攻の大学院生2名に(1名は海外在住経験あり) 訳の自然さなどを確認してもらった。項目は、合理性 (Rationality) 尺度20項目、経験性 (Experientiality) 尺度20項目から構成され、それぞれ能力10項目と態度<sup>1</sup>10項目の下位項目を持つ。項目の一部を表1に示す。

構造欲求 (鈴木・桜井、1999) 構造欲求は、過去の経験を単純化・一般化した表象 (スキーマ、ステレオタイプなど) を生成・使用することにより、世界を単純で扱いやすい形式に構造化する欲求である。認知的負荷の少ない情報処理であり、経験的処理との正の相関が予想される。11項目からなり、5段階評定である。

認知欲求 (神山・藤原、1991) 知識の精緻化や論理的思考への欲求を測定する。認知的労力を要する情報処理であり、合理性との正の相関が予想される。

価値志向性尺度 (理論) (酒井・久野、1997) 個人が重視すると考えられる6つの価値観を測定するものである。このうち、理論は、合理性や論理性を重視するものであり、合理的処理と正に相関すると予想される。12項目から構成され、5段階評定である。

自尊心尺度 (山本・松井・山成、1982) 自己への感情的評価を測定する。合理性尺度は適応との関連が仮定されているため、自尊心との正の相関が予想される。

### 結果と考察

因子分析 合理的 - 経験的情報処理測定尺度の40項目について、主成分分解、プロマックス回転による因子分析を行った。固有値から2因子解を採用し、再び同様の因子分析を行った。第1因子の寄与率は15.9%、第2因

<sup>1</sup> Pacini & Epstein (1999) では、engagement と定義される下位項目であるが、項目内容から態度と訳出するのが妥当と判断した。

子の寄与率は 14.1%であった。各因子に負荷する項目から、第 1 因子は合理性因子、第 2 因子は経験性因子と解釈された。質問項目のうち、因子負荷量が.30 以下のものを除き、合理性尺度 18 項目、経験性尺度 15 項目を採用した。

次に、合理性因子と経験性因子が能力と態度の 2 下位因子から構成されているとする、Pacini & Epstein の仮定を検討するため、各因子別に、2 因子解、主成分解、プロマックス回転を指定した因子分析を行った。合理性尺度では、能力と態度に関する項目が、2 因子に分かれて負荷した。経験性尺度では、能力と態度の項目が 2 因子に混在して負荷した。

経験性尺度は Pacini & Epstein においても 2 因子構造が確認されていなかった。これは、経験的処理を行う能力が、IQ や試験などによって判断される合理的処理の能力と異なり、客観的な基準による判断が困難なためと推察されている。そこで、理論上異なる概念と、相関がみられないことを示す弁別的妥当性の確認により、両尺度の 2 因子構造をさらに検討する。

**妥当性の検討** まず、それぞれの尺度の内的信頼性を算出した。合理性と経験性の 係数は、双方とも.86、構造欲求は.79、認知欲求は.85、価値志向性(理論)は.83、自尊心が.79であった。

次に、合理的 - 経験的尺度との相関が予想される 4 変数と、合理性・経験性、それぞれの能力と態度の下位尺度との相関を算出した(表 2)。比較する相関が多いため、有意水準は 1%以下とした。予想と同じく、認知欲求・理論と、合理性およびその下位尺度の間の相関が認められた。一方、予想と反し、構造欲求と、経験性およびその下位尺度との間に負の相関が得られた。また、自尊心は、合理性と経験性の下位尺度のうち、能力との相関が示された。この結果は、合理的、経験的処理の双方に関して、効果的に使えることができるという自信や確信が、高い自尊心と相関することを示すと考えられる。さらに、

自尊心と態度尺度とは相関がみられなかったことから、能力と態度の下位尺度の弁別的妥当性が示されたと考えられる。

以上の結果から、合理性は、因子分析により能力と従事の 2 因子が抽出され、その弁別的妥当性も確認された。また、合理性では、他の 2 尺度との併存的妥当性がみられ、信頼性と妥当性が確認されたといえる。一方、経験性に関しては、因子分析では 2 因子として抽出されなかったものの、弁別的妥当性が認められ、能力と態度が独立した因子であることが示唆された。また、経験性は構造欲求との負の相関が得られ、予想に反する結果が示された。しかし、合理性との弁別性は示されたことから、妥当性が認められたと考えられる。したがって、日本語版の合理的 - 経験的情報処理測定尺度の信頼性と妥当性は、確認されたといえよう。

### 引用文献

- Epstein, S. 1994 An integration of cognitive and psychodynamic unconscious. *American Psychologist*, **49**, 709-724.
- Epstein, S., Pacini, R., Denes-Raj, V., & Heier, H. 1996 Individual differences in intuitive-experiential and analytical-rational thinking styles. *Journal of Personality and Social Psychology*, **57**, 332-350.
- 神山 貴也・藤原 武弘 1991 認知欲求尺度に関する基礎的研究. *社会心理学研究*, **6**, 184-192.
- Pacini, R., & Epstein, S. 1999 The relation of rational and Experiential information processing styles to personality, basic beliefs, and the ratio-bias phenomenon. *Journal of Personality and Social Psychology*, **76**, 972-987.
- 酒井 恵子・久野 雅樹 1997 価値志向的精神作用尺度の作成. *教育心理学研究*, **45**, 388-395.
- 鈴木 公基・桜井 茂男 認知的構想欲求尺度作成の試み. *筑波大学心理学研究*, **21**, 135-140.
- 山本 真理子・松井 豊・山成由紀子 1982 認知された自己の諸側面の構造 *教育心理学研究*, **30**, 64-68.

表 1 合理的 - 経験的情報処理測定尺度項目の例

合理性
能力
ものごとを注意深く理論的に解決するのは、得意ではない。*
たいていの人より、ものごとを論理的に解決するのが上手である。
態度
一生懸命考えなければならないような問題を解決するのが好きだ。
いろいろ考えるのは好きではない。*
経験性
能力
もし私が直感に頼るならば、間違いをおかすことが多くなるだろう。*
人生や生活上のいろんな問題を考えるとき直感的にやるとうまくいく。
態度
直感に頼って重要な決定をするのは、いい考えだと思わない。*
直感的な印象に頼るのが好きだ。

\*は逆転項目

表 2 合理的 - 経験的情報処理測定尺度との相関

	構造欲求	認知欲求	理論	自尊心
合理性		.76**	.64**	.31**
能力		.55**	.51**	.38**
態度		.78**	.61**	
経験性	-.42**			.21**
能力	-.29**			.34**
態度	-.45**			

\*\*  $p < .01$